



Press Release

映画『よあけの焚き火』

英題【Bonfire at Dawn】

サン・セバスティアン国際映画祭
NewDirectors 部門
正式出品決定！

【メディア関係者各位】

この度、土井康一監督の長編デビュー作「よあけの焚き火」が、第67回サン・セバスチャン国際映画祭2019（9月20～28日）のニューディレクターズコンペティション部門に正式出品が決定しました。同部門では昨年の「僕はイエス様が嫌い」（奥山大史監督）に続く2年連続の日本人監督の最優秀新人監督賞が期待されます。

ニューディレクターズコンペティション部門出品を果たした土井監督は、

「歴史あるサン・セバスティアン国際映画祭にご招待いただけるという知らせをいただき本当に嬉しく、光栄に思います。自分の「家族」への小さな問いから始まったこの映画が、国を越えて、多くの人々の心に届いてくれることを願っています。」

とコメントを寄せています。



映画公式サイト
<https://yoakenotakibi.jp>

映画『よあけの焚き火』

イントロダクション

伝統芸能をモチーフに、「伝えること」という普遍的なテーマを昇華させた稀有な作品が誕生した。映画初主演にして自身を演じるという難役を果たした大藏基誠・康誠は、大藏流狂言方の実の親子。

共演にミュージシャンの坂田明、『幼な子われらに生まれ』(17)で注目を集めた鎌田らい樹を迎え、それぞれが踏み出す一步をみずみずしく演じている。

監督は本作が劇場デビュー作となる土井康一。

長野県蓼科の大自然を風格ある映像で捉えたベテラン・カメラマン丸池納ほか、本作を描くにふさわしいキャスト・スタッフが集まった。

ストーリー

650年の伝統を持つ狂言方の家に生まれた大藏基誠（おおくらもと）と、10歳になる息子・康誠（やすなり）。冬、父と息子は山の稽古場へ向かう。」二人は何を目的に、この山奥を訪れたのか。

ある日、親子の姿を静かに見つめる少女、咲子が現れる。家族の歴史を背負った康誠と、家族を失った咲子。「運命」を背負った二人の心が静かに交差し始める……。

『よあけの焚き火』（2019年/72分/カラー/ビスタ/日本）

出演：大藏基誠 大藏康誠 鎌田らい樹 坂田明

監督：土井康一 プロデューサー：村山憲太郎 撮影：丸池納（『眠る男』）

照明：三重野聖一郎（『アントキノイノチ』）録音：北村峰晴（『GONIN』）音楽：坂田学

配給協力：ポレポレ東中野 製作：桜映画社

プレス用キットのダウンロードURL

<https://www.dropbox.com/sh/hzvvgwb97obfksx/AABMKehiLhRMOfgSKY3Mj3THa?dl=0>

サン・セバスティアン国際映画祭

1953年からの歴史あるスペイン最大の国際映画祭。

ヨーロッパではカンヌ、ベルリン、ヴェネチアに次いで重要な映画祭に位置付けられている。

同映画祭のニュー・ディレクターズ部門は1985年に創設され、これまでに気鋭の新人監督を発掘。しかし日本人監督が選ばれたのは、昨年『僕はイエス様が嫌い』で最優秀監督賞を受賞した奥山大史監督を含め、わずか4人しかおらず、土井監督は5人目となる快挙となる。

【製作・配給】株式会社桜映画社

TEL: 03-5846-9100 / FAX: 03-5846-9101

〒111-0053 東京都台東区浅草橋5-4-1-6F e-mail:info@sakuraeiga.com

担当：小林、村山、土井